

岐阜県糖尿病性腎症・慢性腎臓病(CKD) 重症化予防プログラム

糖尿病性腎症・慢性腎臓病(CKD)重症化プログラムに基づき各地域でさまざまな活動が展開されてきました。すべての重症者ハイリスク者を専門医療機関で診療することは不可能ですので、かかりつけ医の診療での治療強化や保健指導の充実が重要ですが、その点がなかなか進まないという課題も見えてきました。今回はそういった課題に対するさまざまな活動を紹介します。東濃地区では治療や指導が難しい症例を持ち寄って専門医を交え検討する症例検討会が、すでに19回開催されています。岐阜地区ではCKD/DKDコアチーム検討会が立ち上がり、保健指導依頼があったケースへの対応強化が図られています。西濃地区では保健指導対象者の指導法や介入方法について専門医グループで検討し保健指導を通じて指導対象者およびかかりつけ医にフィードバックする検討会が始まりました。また、岐阜大学の安田直成教授が、かかりつけ医が対応に苦慮するケースについて、直接アドバイスをするという取り組みを始められました。このような現場中心の地道な活動が広がっていくことが期待されます。

岐阜県糖尿病対策推進協議会幹事 / 糖尿病性腎症・慢性腎臓病(CKD)重症化予防WG委員長 / 大垣市民病院 糖尿病・腎臓内科 傍島 裕司

慢性腎臓病(CKD)の認知度向上について

岐阜県では令和6年12月に、糖尿病だけでなく腎機能低下者を対象者に含めた『岐阜県糖尿病性腎症・慢性腎臓病(CKD)重症化予防プログラム』(以下プログラム)へ改定し、糖尿病対策と連動したCKD対策を推進しています。

令和4年度岐阜県民健康意識調査では、CKDを知っている人は21.6%でした。そのため、CKDを知っている人の割合50%を目指してCKD及びCKD対策に関する正しい知識の普及に取り組んでいます。

岐阜県CKD普及啓発月間について

岐阜県慢性腎臓病対策推進協議会では、県民の認知度向上のために、関係機関が一体的に啓発に取り組むことが必要であると考え、「世界腎臓デー」(毎年3月の第2木曜)に合わせた2月から3月を、県及び市町村、関係団体等が一体となって啓発事業及び行事等に取り組む「岐阜県CKD普及啓発月間」と定めました。これにより、CKDに関する正しい知識の向上とCKDに関する社会的関心の喚起を図ることで、さらなるCKD対策の推進に取り組んでまいります。

岐阜県CKD普及啓発月間について▶
(岐阜県保健医療課公式HP)



令和7年度の実践について

初年度となった令和8年2月～3月は、関係団体の取組み計画を集約し県ホームページで公表すると共に、健康無関心層への啓発を目的に関係機関MIXによる啓発イベントを開催しました。

今年度も世界糖尿病デー及び全国糖尿病週間、岐阜県CKD普及啓発月間等において、多機関・多職種が一体となった糖尿病及びCKDに関する啓発を行っていきたくと考えておりますので、各関係機関の皆様におかれましてはご協力をお願いいたします。

岐阜県健康づくり キャンペーン当日の様子



1 医師によるミニレクチャー

「みんなで知ろうCKD～ジンプウくんはきょうもげんき～」

講師：岐阜県総合医療センター 村田一知朗医師
(岐阜県慢性腎臓病対策推進協議会委員長)

腎臓の働きや腎臓の大切さについて、絵本を通じて子どもや保護者にもわかりやすく解説し、子どもの頃からのCKD予防を啓発



2 食育SAT体験・栄養相談

岐阜県栄養士会 管理栄養士

岐阜県管理栄養士
(保健医療課・西濃保健所)

参加者の普段の食事について、栄養バランスをチェック! 年代に合わせたカロリーや食塩のとり方について、管理栄養士がアドバイス



3 CKD予防に関する相談・情報提供

岐阜県看護協会 看護師

(糖尿病看護認定看護師、透析看護認定看護師等)

健康相談では、血圧測定を行い、家庭血圧の測定の大切さや、eGFRの変化について意識することなど、CKDの予防について認定看護師がアドバイス



4 CKD啓発動画の放映と資料配布

日本ペーリンガーインゲルハイム株式会社

(連携協定企業)

動画やチラシなどを用いてCKDに関する情報を提供し、参加者に健診受診及び結果に応じた医療機関受診を啓発





事例
紹介

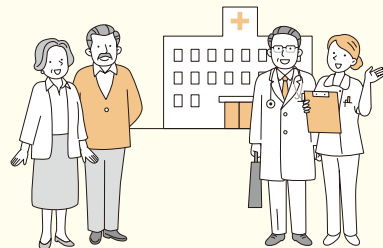
揖斐郡糖尿病性腎症・慢性腎臓病重症化予防の取り組み

揖斐郡3町は、平成31年に「揖斐郡糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を策定し、糖尿病性腎症の重症化予防について医療機関未受診者や糖尿病治療中断者への受診勧奨を中心に行ってきました。


令和5年度からは、慢性腎臓病(CKD)重症化予防に係る取り組みを追加し、特定健診の個別健診をお願いしている郡内医療機関で、尿蛋白(+)以上とeGFR60未満の方の結果返却の際に、リーフレットを使用しCKDについて説明していただきました。また受診から3か月以降に各町から受診勧奨の個別通知を送付しました。

その後西濃保健所での担当者会議や専門医の講演会等での学びをもとに、令和7年度に、名称を「揖斐郡糖尿病性腎症・慢性腎臓病(CKD)重症化予防プログラム」へと改定し、CKDの対象者を①尿蛋白2+以上、②eGFR45未満、③eGFR60~45かつ尿蛋白+に絞り、受診勧奨・確認をしています。

プログラムを推進することで、住民の腎不全や人工透析への移行を予防し、健康増進と医療費の適正化を図るため、揖斐郡医師会と連携して今後も持続的に取り組んでいきます。



◆ 取り組み実績

	揖斐川町		大野町		池田町	
	R5	R6	R5	R6	R5	R6
特定健康診査受診者数	1433人	1316人	1094人	1080人	1076人	1116人
受診率	46.0%	45.4%	35.3%	36.3%	33.3%	37.8%
	県平均		R5:40.5%		R6:41.0%	
糖尿病未受診者	4人	33人	19人	6人	12人	12人
医療機関受診につながった者	4人	17人	13人	2人	2人	4人
糖尿病治療中断者	2人	4人	0人	0人	8人	8人
医療機関受診につながった者	2人	4人	0人	0人	1人	2人
CKD未受診者	/		/		90人	76人
医療機関受診につながった者					148人	50人
慢性腎臓病と診断された者	/		/		23人	18人
					71人	38人
 各町担当者から	R5のCKDは情報提供のみ。CKD対象者の多さが特徴としてあるため、CKD予防の普及啓発の必要性を感じている。		R5のCKDは、人員の都合で実施できなかった。レセプト内容で、腎臓に関する診療を受けているかを読み取るのが難しく、迷うことが多い。		治療中断者には家庭訪問等で経緯や状況を把握したうえで受診勧奨をおこなっている。レセプト確認も含めて状況確認に時間を要する。	

◆ 医師会担当理事より

日本では、新規透析導入の原因疾患の中で糖尿病性腎症が最も多い状況が続いており、医療費・QOLの両面から大きな社会課題となっています。糖尿病性腎症とCKDを一体的に扱う対策が推進されております。

揖斐郡では、特定健診にて尿蛋白及び腎機能の評価であるeGFRの測定をおこない積極的にCKDの予防に取り組んでおり、行政との連携を密にして、未治療者・治療中断者を早期に医療につなぐ、ハイリスク者への保健指導により腎機能低下・透析導入を防ぐ等の地域連携の取り組みを行っております。残念ながら揖斐郡には、腎臓専門医の常勤医が不在なため、地域のかかりつけ医である各医師会員の慢性腎臓病への知識を高めていく取り組みで診療内容を充実させていきます。最近では、Long term eGFR plot(LTEP)による長期的な腎機能評価によりCKDへの介入の明示化やCKD治療・紹介フローチャートが作成され、治療薬も確立してきたことから、かかりつけ医の対応で十分な治療が可能です。

しかし、eGFRの急速低下、尿蛋白高度、治療抵抗性高血圧等のハイリスクのCKDの方は、西濃厚生病院内科(腎臓内科:非常勤医師)、大垣市民病院の糖尿病・腎臓内科、岐阜大学医学部附属病院と連携して『糖尿病性腎症・慢性腎臓病(CKD)重症化予防プログラム』に基づいて対応しております。